

プレガバリンOD錠 25mg 「TCK」
 プレガバリンOD錠 75mg 「TCK」
 プレガバリンOD錠 150mg 「TCK」

【この薬は？】

販売名	プレガバリンOD錠 25mg 「TCK」 PREGABALIN OD Tablets 25mg 「TCK」	プレガバリンOD錠 75mg 「TCK」 PREGABALIN OD Tablets 75mg 「TCK」	プレガバリンOD錠 150mg 「TCK」 PREGABALIN OD Tablets 150mg 「TCK」
一般名	プレガバリン Pregabalin		
含有量 (1錠中)	25mg	75mg	150mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、疼痛治療剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、神経伝達物質の放出を抑制し、鎮痛作用を発揮します。
- ・次の病気の人に処方されます。

神経障害性疼痛**線維筋痛症に伴う疼痛**

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりしないでください。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にプレガバリンOD錠「TCK」に含まれる成分で過敏症のあった人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・重度のうっ血性心不全のある人
- ・過去に血管浮腫のあった人
- ・薬物依存の傾向または過去に薬物依存の傾向のあった人、精神疾患のある人
- ・腎臓に障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

- ・プレガバリンOD錠 25mg「TCK」、75mg「TCK」または 150mg「TCK」を組み合わせ合わせて飲むことがあります。
- ・飲み始めてから、1週間以上かけて徐々に増量されます。
- ・高齢の人や腎臓に障害のある人は、飲む量と飲む回数が調節されます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔神経障害性疼痛の人〕

	初期用量	維持量	最高用量
1日量	150mg	300mg	600mg
飲む回数	1日2回に分けて飲みます		

〔線維筋痛症に伴う疼痛のある人〕

	初期用量	維持量	最高用量
1日量	150mg	300～450mg	450mg
飲む回数	1日2回に分けて飲みます		

●どのように飲むか？

- ・口の中で溶かして飲む薬です。舌の上へのせ唾液で湿らせて舌で軽くつぶし水なしで飲むことができます。また、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲むこともできます。
- ・口の中で速やかに崩壊しますが、口の粘膜からの吸収により効果発現を期待する薬ではないため、崩壊後は唾液や水またはぬるま湯で飲み込んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分をできるだけ早く飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とぼして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

落ち着きがない、感情が激しくたかぶる、刺激がないと眠ってしまう、錯乱状態、抑うつ、けいれんなどがあらわれる可能性があります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・めまい（宙に浮いた感じ、ふらつき、頭が回っている感じ）、刺激がないと眠ってしまう、意識の消失などがあらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は医師に相談してください。
- ・自動車事故に至ったとの報告がありますので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないでください。
- ・特に高齢の人で転倒し骨折に至ったとの報告があります。
- ・突然この薬を中止すると眠れなくなる・吐き気・頭痛・下痢・不安・多汗症などの離脱症状があらわれることがあるので、この薬の使用を中止する場合は時間をかけて徐々に減量していきます。自己判断でこの薬を減量したり、やめたりしないで下さい。
- ・体重が増加することがあります。特に飲んでいる量を増やした場合や長期間飲んでいて、体重が増加することが多いので、定期的に体重測定を行い、体重が増加し始めた場合には、医師に相談してください。食事内容の改善や運動などがすすめられることもあります。
- ・視力の低下、見えにくい、霧がかかったような見え方、ものがだぶって見えるなどの症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合は医師に相談してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・アルコール飲料はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
めまい	宙に浮いた感じ、ふらつき、頭が回っている感じ
傾眠 けいみん	刺激がないと眠ってしまう
意識消失 いしきしょうしつ	意識の消失

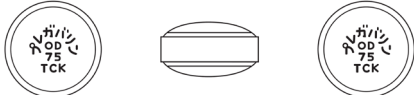
重大な副作用	主な自覚症状
心不全 しんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える
肺水腫 はいすいしゅ	息苦しい、息をするときゼーゼー鳴る、咳、痰、呼吸がはやくなる、脈が速くなる、横になるより座っているときに呼吸が楽になる
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
腎不全 じんふぜん	尿量が減る、むくみ、体がだるい
血管浮腫 けっかんふしゅ	唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる、喉がつまる感じ、息苦しい、声が出にくい
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白(そうはく)、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しい
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振

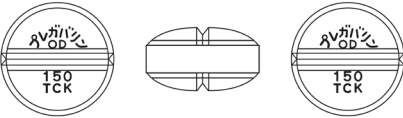
以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	宙に浮いた感じ、ふらつき、疲れやすい、むくみ、体重が増える、脱力感、体がだるい、冷汗が出る、けいれん、発熱、体がかゆくなる、急激に体重が増える、力が入らない、食欲不振
頭部	頭が回っている感じ、刺激がないと眠ってしまう、意識の消失、意識の低下、めまい、急な意識の低下
顔面	唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる、血の気が引く、顔面蒼白(そうはく)

部位	自覚症状
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる
口や喉	咳、痰、喉がつまる感じ、声が出にくい、喉のかゆみ、唇や口内のただれ、喉の痛み、血を吐く、吐き気
胸部	息苦しい、息切れ、息をするときゼーゼー鳴る、呼吸がはよくなる、横になるより座っているときに呼吸が楽になる、動悸(どうき)
腹部	お腹がすく、お腹が張る
手・足	脈が速くなる、手足のこわばり、手足のしびれ、手足のふるえ、手足が冷たくなる、関節の痛み
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が黄色くなる
筋肉	筋肉の痛み
便	便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)
尿	尿が赤褐色になる、尿量が減る、尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

販売名	プレガバリンOD錠 25mg 「TCK」	プレガバリンOD錠 75mg 「TCK」
形状	素錠 	素錠 
直径	6.0mm	8.3mm
厚さ	2.9mm	4.7mm
重さ	75mg	225mg
色	白色	白色

販売名	プレガバリンOD錠 150mg 「TCK」
形状	素錠(割線入り) 
直径	10.5mm
厚さ	5.9mm
重さ	450mg
色	白色

【この薬に含まれているのは？】

販売名	プレガバリンOD錠 25mg「TCK」	プレガバリンOD錠 75mg「TCK」	プレガバリンOD錠 150mg「TCK」
有効成分	プレガバリン		
添加物	D-マンニトール、硬化油、クロスポビドン、タルク、ヒドロキシプロピルセルロース、スクラロース、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、香料		

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：辰巳化学株式会社(<https://www.tatsumi-kagaku.com/>)

薬事学術・安全管理部：076-247-2132

受付時間：月～金曜日 9:00～17:00（祝祭日を除く）